

# あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第50号

2019年7月15日発行

～夏を彩る野菜の原産地は？～

答は、本ページの下にあります



<答>

① きゅうり：インド北部 ヒマラヤ山麓、② トマト：南米ペルー アンデス山脈、③ オクラ：アフリカ北東部  
④ 大豆：東アジア、⑤ ナス：インド東部、⑥ トウモロコシ：メキシコ・グアテマラ

★本会報はカラーでご覧になれます。

当協議会ホームページの <https://abiko-chisan.com/newsletter>

またはQRコードから、会報「第50号」をお読みください。



# 1. 会長挨拶

会長 齊藤徳剛

去る5月18日に開催された当協議会第16回定期総会におきまして、会長に選任いただきました齊藤徳剛です。前年度までの先人の活動経過を踏まえながら、上記総会で承認を得ました「2019年度活動計画」に即して、当協議会の活動全般をしっかりと推進して参りたいと思います。

さて、平穩だったと思われる『平成』も『令和』へと元号が変わりました。当協議会も変化の時を迎えているのかもしれませんが。援農ボランティア及び受け入れ農家の減少、イベント活動の担い手不足、会員相互の意思疎通、我孫子エコ農産物普及推進協力など考えていかなければならないことが山積みです。新たな課題を皆さんと話し合い共通



認識を作っていくことが重要です。ボランティア活動は自発的であることが前提で継続性がなければ意義が薄くなります。

先ずは、これまで築いてきた各事業分野の諸活動を従前にも増して着実に実行していくのが肝要と考えています。そのうえで、各人が今行っている活動のすばらしさを再認識して、より出来ることを提案していただきたく思います。加えて皆さんでの議論を深めてゆくのが大切と考えます。

今後とも、会員並びに役員の皆様、市役所をはじめ多くの関係者各位と共に、当協議会の『豊かで住みよい農あるまちづくり』という理念を常に踏まえながら事業の推進に力を尽くしたいと思いますので、どうぞご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

# 2. 総会報告

総務部会長 小松信彦

あびこ型「地産地消」推進協議会の第16回定期総会が、令和元年5月18日（土）午後1時30分よりあびこ市民プラザ・ホール（あびこショッピングプラザ3F）で開催されました。第1部講演会では、我孫子市立新木小学校の杉本一生先生による「トマツト誕生ヒストリー～つながる総合的な学習を通して～」と題して、新木小学校の現6年生が昨年来、我孫子産農産物学習に取り組んでいる活動を興味深くお話いただき新木小学校の関係者や協議会会員の皆様も関心をもって聴講しました。第2部定期総会は、会員の出席34名、委任状の提出60名の状況にて会則により成立しました。会則に基づき齊藤会長代行が若王子副会長を指名し議事進行しました。議案として、第1号議案 平成30年度活動報告について 第2号議案 平成30年度収支決算報告について 第3号議案 令和元年度活動計画について 第4号議案 令和元年度収支予算案について 第5号議案 令和元年度新役員の選出について 審議いただきました。審議においては①食育交流部会の支出がマイナスなのは何か。②予備費から支出しなかった理由は何か。との質問があり、①支出の部はマイナスであるが、収支の部で説明したとおり、イベントの実施に伴う参加費収入があり、食育交流部会としてはプラスである。②予備費は不測の事態に備えて慎重に支出したいなかで、①で説明した通り、部会としては収支がプラスであったため、予備費からは支出しなかった。また、令和元年度の活動計画において、「前年度に比べてイベント数が減ることを理由に、イ



イベント収入を決算額に比べて減少とした一方、食育交流費を増額するのは矛盾しないか」との質疑があった。これについてはイベント数が減るのは、エコ農産物普及推進費で支出した「いただきます」の映画上映分で、食育交流費とは関係がない。食育交流費で実施する「料理教室」と「採って食べよう」は前年度同様に2回ずつ実施する予定で、前年度は予算が不足したため増額したいと説明。すべての議案とも挙手多数により原案通り承認されました。その後新役員の紹介を行いました。第3部の会員懇親会では、我孫子産野菜をふんだんに使った「米舞亭」の料理を味わいながら会員相互の親睦を深めました。

### 3. 新役員紹介

#### ○学校給食支援部会

部会長 中村 公一

定年退職後、体力があるうちに思う存分趣味の登山を中心に自由時間を謳歌するはずでしたが、それだけでは時間を持て余すため、家庭菜園に取り組もうと決意して体験農園「むそう塾」の門をたたき、今年で6年目になります。無農薬無化学肥料による野菜作りもやっと軌道に乗りつつありますが、その大変さもわかってきました。露地栽培のため、天候、獣の食害、病虫害等々への対策など農家の皆さんの一方ならぬ苦労の一端が理解できるようになったのは収穫でした。ある人曰く「農業はクリエイティブな産業」であることを日々実感するようにもなりました。



2017年になって「むそう塾」に搬送ボランティアのなり手不足の話が舞い込み、塾生4名が助っ人を引き受けることになりました。さらに2018年には前部会長の健康上の事情から後任部会長の依頼を受け、思いもかけず推進協議会の活動に深入りすることになりました。搬送ボランティアは現在6名でのローテーション制で火曜と金曜の早朝、我孫子産野菜を小中学校に届ける地味な役割です。不定期な活動だけに体調管理や交通安全には気を使います。それでも雨の日も風の日も新鮮で安全な地元産野菜を届け続けています。

部会活動においては旧弊にとらわれずに小さな改善を積極的に行っていくつもりです。特に搬送活動にかかわる部会内での情報共有(よい情報も悪い情報も)は重要と考えており、今年度の活動の中で重点的に推進していきます。

#### ○食育交流部会

部会長 須藤 一宏

この度、食育交流部会の部会長をさせていただくことになりました、柴崎地区で田畑を耕している農家の須藤です。コシヒカリと露地野菜を直売所や農協に出荷しています。普段は生産者として日々を費やしていますが、今後の農家のあり方としては、いかに消費者に理解してもらい、また満足いただける、そして喜んでいただける関係を作っていくかということが大事だと思います。このことは当協議会の活動を通して実践していけるかと思っています。前任の白澤さんが築いてきたものがあまりにも大きくて、任の重さを痛感しています。それでも、今後少しでもよいもの、良い関係が農家と消費者、そして未来を創る子供たちと作れるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



## 4. 新役員・実行委員一覧表

役職名	氏名	実行委員等		
会長	齊藤 徳剛			
副会長	若王子 範文			
副会長	大炊 三枝子			
副会長	松本 清			
総務担当	小澤 俊輔			
会計	小澤 俊輔	(農政課担当)	斎藤 寿義	西田 集
工コ農産物普及 推進部会長	今村 直美	井出 史郎	日暮 俊一	和田 洋
		栗原 裕子		
食育交流部会長	須藤 一宏	香取 典男	八澤 静江	牧原 淳子
		顧問 白澤 幸雄	サポーター委員 相馬 英里	サポーター委員 南 千春
援農ボランティア 部会長	井出 史郎	石田 善久	宮園 祐爾	吉田 和子
		(農家委員) 杉浦 勲	(農家委員) 染谷 智一郎	(農家委員) 高木 博之
学校給食支援部会長	中村 公一	植松 博	山崎 甫	梅田 昭
		関口 敏雄	百瀬 康	
	学校給食 コーディネーター	折越 揚身	福本 定一	
広報部会長	若王子 範文	日暮 俊一	武井 伸勝	
総務部会長	小松 信彦	齊藤 徳剛	吉田 和子	
会計監事	小林 明弘	仲原 千津子		
事務局	小松 信彦	吉田 和子		

## 5. 講演会(トマト誕生ヒストリー)

第16回定期総会の第1部では新木小学校の杉本一生先生をお招きし、「トマト誕生ヒストリー！～つながる総合的な学習を通して～」と題して講演会が行なわれた。昨年度に新木小学校の5年生が我孫子の農業について学習した取り組みが紹介された。

### ○「トマトとは」

トマトとは、新木小学校の児童が考案した我孫子の農業PRキャラクターである。

どんなキャラクター？	トマトから生まれた妖精
何歳？	12歳
服装は？	白い服の汚れは畑仕事を頑張った農家を表現
ポケットは？	トマトをおいしくする薬やたくさんの道具が入っている
普段は何してる？	平日は畑仕事の手伝いやトマトの研究。休日は道具を磨いたり、ゴロゴロしたり。
好きな食べ物は？	我孫子の人が育てたおいしい野菜
夢は？	トマトのスーパーヒーロー

杉本一生先生の講演



トマトのデザイン

### ○「我孫子の農業」を学ぶこととした理由

新木小学校の5年生は1学期に社会科で米作りを学んでいる。調理実習の時間には、我孫子のお米と他のお米の食べ比べを行った。すると我孫子のお米が思った以上においしい。子どもたちは、普段から田畑を目にしているのに我孫子の農業についてほとんど知らないことに気づき、我孫子市の農業に興味を持った。そこで総合学習では、我孫子の農業をテーマに、生産者と農業に関わる人たちにも注目して調べることにした。

### ○見学と講話会

子どもたちは、我孫子の野菜がどのように販売されているかを学ぶため、地元の成山直売所とフードスクエアカスミ新木店を見学した。成山直売所のトマトは子どもたちに大好評で、トマトが嫌いだったのに食べられるようになった子もいた。また、講話会を開催し、生産者代表として株式会社あびベジ、生産者を支援する立場としてあびこ型「地産地消」推進協議会と農政課から仕事やボランティアのやりがいや苦労などの話を聞いた。あびベジの田村さんの「生産者はトマト自身で、農家は面倒を見ているだけ」というお話や協議会の齊藤さんの「ボランティアは楽しんでやっているから大変なことは無い。」という話が特に子どもたちの印象に残ったようだった。

子どもたちは、生産者や生産者を支援する団体の思いや取り組みを知り、学習したことを新聞にまとめた。学習後のアンケートでは、「おうちの人と直売所に行っています」「地産地消コーナーに通ってます」という回答が寄せられており、関心の高まりが感じられた。

新木小の学習の様子





## ○再発見！我孫食PRし隊！

3学期は、我孫子の農業について学んだことを踏まえて、子どもたちの立場で我孫子市の農業の活性化のために何ができるかを考えた。保護者へのアンケートを行った結果、援農ボランティアの活動を知っている人や農業イベントに参加したことのある人は2割以下だった。この結果を見て、我孫子市の農業の良さや取り組みをたくさんの人に知ってもらい取り組みをすることに決めた。

我孫子市の農業をPRするために、「パンフレットチーム」「ポスター、マップチーム」「PR動画チーム」「ホームページチーム」の4チームを編成した。さらに、我孫子産レシピやPRキャラクターの作成にも取り組んだ。子どもたちは、お世話になったフードスクエアカスミ新木店やあびベジ、協議会、農政課を学校に招き、PR作品の発表会を開催した。大人に発表するのにとても緊張していたが、貴重な経験になったと思う。PR作品は、市内の各公共施設で配布、掲示された。現在もPR動画はあびこ農産物直売所あびこのモニターで放映されており、レシピは市のホームページにて公開している。

## ○「トマト」に込められた思い

改めてトマトのプロフィールを見返してほしい。服に付いた汚れは、畑仕事を頑張っている農家さんの苦勞への敬意が込められている。トマトが美味しくなる薬などが収納されたポケットは、農家さんの知恵や技術への敬意が込められている。トマトのデザインには、我孫子市の農家に対する子どもたちの気持ちが表現されているのだ。

## ○今後の取り組み

この春、当時の5年生は6年生になって新たな取り組みをスタートさせた。5月初旬に中玉トマトの苗を植えて夏の収穫を目指している。あびベジの田村さんが生育指導に協力しており、引き続き協議会、農政課も協力していく予定だ。昨年度に続くこの取り組みは、子どもたちが「今度は実際に育ててみたい！」と声を上げたことで実現した。総合的な学習の時間を活用して行われており、子どもたちが「働く」ことの意味を考えるキャリア教育の一環になっている。

最後に、子どもが寄せた授業の感想を1つご紹介したい。

「今回の取り組みで将来は栄養士になりたいと思った。栄養士になって、我孫子の農家さんが作ったおいしい野菜を調理して子どもたちに食べさせたい。」 農家、ボランティア、行政、学校の繋がりが、子どもたちの未来、農業の未来に繋がっていく。

PR作品の発表会



新木小の学習日より



中玉トマト苗の植え付け



発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 齊藤徳剛

住所：270-1146 我孫子市高野山新田193（「水の館」2F）

（業務日 月・火・木）9：00～17：00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail [info@abiko-chisan.com](mailto:info@abiko-chisan.com) HP <http://abiko-chisan.com/>

（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）

